

支部だより

令和6年 秋季審査会 (少年Ⅱ部/一般部)

※ 少年Ⅰ部の写真は3ページの行事報告ページに掲載



43-01



43-02

ご挨拶

人の心は一定ではなく、時を経て、時代の変化と共に自分の置かれている立場や考え方が移ろっていくのは、人の常。そんな中で変わらず努力を続けていく方々を持って、長く積み上げられてきた「伝統」というものが築き上げられています。素質があり、才能があり、若くて体力のあるものが試合や審査で活躍することは、稽古を共にする者の励みになるのですが、一方でそれほど素質に恵まれていなくとも、若くもなく体力的にも素質的にもそれほど恵まれたものを持っていないくとも、人は努力を積み重ねる過程で、とても大きくて偉大なものを築き上げる原

北の地方では、厳しい冬の寒さが続いているようですが、この地域では、少しずつ春の温かさが感じられるようになってきました。そうした中、半年ごとに発行されるこの会報の文章を書きながら思う事は、その時期ごとに、稽古生の上達具合や締めている帯の色、稽古に参加される一般部稽古生の顔触れなどにも少しずつ変化が現れ、時代と共に少しずつ色々なものが移ろっていくのだなあ、という事です。気合十分で稽古を初めても、長く続けることは難しく、一方では地道に、実に粘り強く稽古を続けてきた方が、少しずつ帯の色を上げ、自分に対する自信を深めていく姿を見ることは、指導者にとってもとても喜ばしい事です。

一流の料理人や、一流ではなくとも長年料理を作り続けてきた主婦(主夫)の方々が作り上げるパフスの取れたとても美味しい料理は、料理をしない方々にとっては、一つの食材から生まれる、まるで手品のような技術だと感じられるかもしれません。食は人にとっては欠かす事の出来ない物であるにもかかわらず、現代のような時代には、お米一つ炊くこともできない人がいるのです。

一流の音楽家や、一流ではなくとも長年、自分の楽しみとして楽器演奏を続けてきた方の技術も、音楽にたしなみの無い方には、魔法のようなテクニックに感じられるでしょう。長年培ってきたテクニックは、これから学ぼうとしている方には、大人であっても、そうそうたやすく真似ができるものではありません。

一方で気持ちがあれば、世の中には還暦を過ぎて始めた水泳やマラソンなどでギネスに記録されるほどの大きなことをされる方の話も見聞きします。人は物事の感じ方や考え方を上手く整えることで、その可能性は無限大に広がっていくように感じています。どのような人生が自分にとっての正解であるのか、今一度しっかりと考えてみたくなる次第です。

動力となる継続のエネルギーを持って、人が到達できない境地に行き着く事が出来る可能性が生まれてくるものだと思います。

支部長 森 直樹

目次:

ご挨拶	1
行事報告	2~3
キッズ&ジュニア 少年部・塾生だより	4~6
こどものコーナー	7
キッズ&ジュニア 優良出席者	8
栄養 コラム	9
一般部・塾生だより	10~11
写真(活動の様子)	12
高校生・一般部 合宿・大会 道場紹介レポート	13~14
活動状況	15
一般部昇段レポート 行事レポート	16~17
継続の礎	18
お知らせ	19
編集後記・コラム	20

寄稿者:

「塾生便り」(少年部)

山田愛蘭 中野朱梨 初見 碧
松崎 優 浦部昇吏 水野瑛斗

「塾生便り」(一般部)

宮崎俊孝 木村 司 加藤 亮

「行事・道場・大会レポート」

高森雄大 羽鳥哲也 小山真一
早瀬敢汰 若林和男

「昇段レポート」

谷井翔太 山口真人 太田裕司

「継続の礎」

小林俊也